

文化庁委託「NFT技術を活用した地方文化振興の新しい事業モデル作り」事業

「しまくとぅばNFTプロジェクト」 実施報告書

琉球朝日放送株式会社

目次

第1章：事業の背景と目的 (P.3-6)

- 1-1. 消滅危機言語「しまくとうば」の現状
- 1-2. しまくとうばNFTプロジェクト概要
- 1-3. 実証の狙い「ロイヤルカスタマー」発掘と可視化

第2章：実施内容 (P.7-26)

- 2-1. 制作コンテンツ
- 2-2. NFT制作と配布
- 2-3. リアルイベント
- 2-4. しまくとうばクイズ

第3章：実証結果 (P.27-38)

- 3-1. 全NFT配布結果
- 3-2. テレビ放送及び配信
- 3-3. リアルイベントによる実証成果
- 3-4. アンケート結果

第4章：成果と課題 (P.39-41)

- 4-1. 実証で得られた成果
- 4-2. 実証で見えてきたNFTの課題と手ごたえ

第5章：今後の展望 (P.45-49)

- 5-1. 今後の取り組み
 - 5-2. 有識者からの提言
 - 5-3. 連携事業者からの提言
 - 5-4. おわりに
- 巻末資料. 歌詞比較表

しまくとぅばNFTプロジェクト

【第1章：事業の背景と目的】

【1-1. 消滅危機言語「しまくとぅば」の現状】

◆地域文化の断絶と継承の危機

ユネスコによって消滅の危機にある言語として指定された「しまくとぅば」は、沖縄の各地に伝わる民謡をはじめとして組踊や琉歌など、まさに伝統芸能における琉球文化の基盤となっています。しかし、日常会話として言葉を操る話者の高齢化が進む一方で、10代から40代の現役世代や子供たちへの言語の継承は、様々な要因によって困難な状態に陥っています。実際に医療や介護の現場において、しまくとぅばを話す高齢者が、自身の体調不良や痛み、あるいは繊細な感情を慣れ親しんだ言葉で訴えても、それを受け止める若いスタッフ側が言葉の意味を理解できないという深刻な問題として表面化しています。言葉の消失は単なる伝達手段の喪失にとどまらず、沖縄という土地のアイデンティティそのものが失われるという文化の危機に直面しています。

【名桜大学 波照間永吉特任教授】

◆言語喪失がもたらすアイデンティティの危機

しまくとぅばは単なる伝達手段ではなく、地域の文化を形作る「文化の母親」です。言葉が失われることは、自分たちの文化の根源を辿ることができなくなることを意味し、将来的に「ウチナーンチュがウチナーンチュでなくなる」という、深刻なアイデンティティの喪失を招くと危惧されます。

◆継承を阻む「構造的要因」と現状の限界

明治以降の標準語励行運動や、戦後の経済発展に伴う人の流動・核家族化により、地域社会の完結性が崩れ、家庭内での自然な継承が途絶えてしまいました。かつては年中行事等で親戚が集まり、それぞれの地域の言葉に触れる機会がありましたが、現在はそのバックボーンが機能していません。また、テレビやラジオから流れる標準語が日常生活を占拠しており、意識的な取り組みなしには言葉を保つことは絶望的な状況です。そのほかに沖縄県によるしまくとぅば普及センター等の取り組みは評価できるものの、生活に根ざした有効な手立てになっているかは、慎重に吟味する必要があります。

【1-2. しまくとぅばNFTプロジェクト①】

◆価値の可視化と最大化

本事業で実施するプロジェクトは、テレビ放送というマスメディアとNFT技術を組み合わせた新たな試みです。

1. プロジェクトの基本構造

- ・ 地上波番組内でしまくとぅばに触れる機会を創出し、画面上のQRコード等を通じてNFTを配布する。これによりこれまでしまくとぅばに無関心だった層へも幅広くリーチします
- ・ アカウントレスNFT配布を活用し、ウォレットの開設なしでLINEを通じてNFTを取得できるユーザー体験を設計し、デジタルに不慣れな層や若年層の参加障壁を極限まで下げます。

2. 学習モチベーションの設計

- ・ 学習成果証明NFTとして「しまくとぅばクイズ」に答えると手に入るNFTを発行。学習の継続性を「ステータス」として可視化します。
- ・ プレミアム体験へのアクセス権として、特定のNFTを保有しているユーザー限定の交流イベントを企画します。

【1-3. 実証の狙い「ロイヤルカスタマー」発掘と可視化】

◆「しまくとうばロイヤルカスタマー」の可視化

しまくとうばを学びたい人を「しまくとうばロイヤルカスタマー」と位置づけ、NFTを通して、可視化します。具体的には、どのコンテンツが学習意欲を刺激したか、イベントへの参加率はどうかといったデータを収集し、改善に活かすとともに、様々なしまくとうば関連のイベントや学習会等の情報を積極的に発信します。

◆しまくとうばの持つ価値を再評価

テレビによる広域リーチと、NFTによる個々のエンゲージメントの深化、そして「しまのうた」が持つ深い文化的文脈をアーティストによる新たな表現で発信するとともに、クイズを通じた学習的な要素をもたせることで、しまくとうばを単に「昔の言葉」ではなく、「今につながる言葉」として捉えなおす機会を創出します。

◆本事業の目指すゴール

琉球朝日放送では、主にニュース番組で「しまくとうば」を扱ったクイズコーナーの展開や特別番組の放送、リアルイベントなどを通して、消滅の危機にある「しまくとうば」の保存と普及を行うことを地域に根差すローカルテレビ局としての使命と受け止めて、日々尽力しています。今回の事業において、テレビ放送とNFTという新しい技術を組み合わせることにより、「しまくとうば」が直面している若い世代への継承という課題の解消とともに、持続可能な地方文化振興モデルの構築を目指します。

しまくとぅばNFTプロジェクト

【第2章：実施内容】

◆ミニ番組「しまのうた」概要

ユネスコが消滅危機言語として警鐘を鳴らす沖縄の言葉"しまくとうば"。番組ではそんな失われつつある"しまくとうば"が刻まれた歌碑のもとを5組のアーティストが訪れます。しまくとうばで書かれた言葉の意味を学びながら、歌に託されたしまのうたの歴史をひも解いていき、最終的にそれぞれのアーティストは歌碑をもとにした"全く新しいオリジナルの楽曲"を生み出していきます。

また、新たな取り組みとして、番組で制作するNFTを画面上にQRコードとして掲出し、視聴者に向けて無料のデジタルスタンプ（NFT）として配布を行います。NFTを自身のLINEを通じて手軽に集めることができるほか、NFTのコンプリート特典として、スペシャルイベントの参加チケットになる機能するスタンプラリー企画なども実施します。

放送日：2026年1月19日（月）～2月18日（水）まで

放送枠：毎週月曜・水曜 午後6時55分～午後7時00分



【2-1. 制作コンテンツ】

番組WEBサイト

しまのうた

[毎週月曜・水曜 午後6時55分]

ユネスコが消滅危機言語として登録を請らす沖縄の言葉“しまくとぅば”。

番組ではそんな失われつつある“しまくとぅば”が刻まれた歌碑のもとを5組のアーティストが訪れます。しまくとぅばで書かれた言葉の意味を学びながら、歌に託されたしまのうたの歴史をひも解いていき、最終的にそれぞれのアーティストは歌碑をもとにした“全く新しいオリジナルの楽曲”を生み出していきます。

また、新たな取り組みとして、番組で制作するNFTを画面上にQRコードとして掲出し、視聴者に向けて無料のデジタルスタンプ(NFT)として配布を行います。

NFTを自身のLINEを通じて手軽に集めることができるほか、ロケ地巡礼NFTのコンプリート特典として、スペシャルイベントの参加チケットとして機能するスタンプラリー企画なども実施する予定です。

#10 Serika + YAPAN × 竹富島 後編 (2026年2月18日放送)



※下記ボタンからデジタルスタンプをLINEを通じてダウンロードできます

★ #10 NFT (デジタルスタンプ) をGET!

ニュースで紹介されました



<https://www.qab.co.jp/shimanouta/>
全10話 + 取組み紹介VTRを配信

#9 Serika + YAPAN × 竹富島 前編 (2026年2月16日放送)



※下記ボタンからデジタルスタンプをLINEを通じてダウンロードできます

★ #9 NFT (デジタルスタンプ) をGET!

赤枠部分をタップするとLINEを通じてNFTをダウンロードすることが出来る導線設計

【2-1. 制作コンテンツ】

テレビ番組

国頭語 伊江島編

#1 放送 1月19日 (月)

#2 放送 1月21日 (水)



出演 Teechi 沖縄県を中心に活動する4人組バンド

歌碑 ましゅんく節 伊江島に伝わるしまのうた

Teechiは、本プロジェクトの#1と#2において、国頭語が話されている地域・伊江島に伝わる伝統的なしまのうたである「ましゅんく節」の再解釈に挑みました。原曲の「ましゅんく節」は、かつての伊江島において地域の拠点であった「殿内（どうんち）」の離れに若者たちが集まり、恋バナや世間話に花を咲かせていた社交文化を象徴する楽曲です。

Teechiはこの伝統的な旋律をベースに、現代の若者の日常（テスト勉強や友人との何気ない会話など）を投影した新曲「てんとうんてん」を制作しました。彼らは、かつての「美童（若者）たちが集まる社交場」という原曲の精神を、現代の「仲間と笑顔で過ごす平和な時間」へと繋げ、三線の音色とともに「平和なメロディ」として再定義しました。これにより、消滅の危機にある言葉や文化を、現代の若者が共感できる新しい音楽コンテンツへと昇華させる役割を果たしました。

【2-1. 制作コンテンツ】

テレビ番組

与那国語 与那国島編

#3 放送 1月26日 (月)

#4 放送 1月28日 (水)



出演

友利あゆ 沖縄県出身19歳のシンガーソングライター

歌碑

とぐる岳節 与那国島に伝わるしまのうた

友利あゆは本プロジェクトの#3と#4において、日本最西端の島であり、祖母の出身地でもある与那国島に伝わるしまのうた「とぐる岳節（とぐるだぎぶし）」の再解釈に挑みました。原曲の「とぐる岳節」は、かつて農作業を終えた島の人たちが馬の背に揺られながら口ずさんだ労働歌（ディラバ）であるとともに、帆船時代の過酷な航海の安全を祈る切実な「祈りの歌」でもあります。歌詞に登場する「うりみかてい」とは、与那国から石垣島へ渡る際に最も重要視された南西の季節風を指し、命がけの航海において自然を味方につけようとする島の人の切実な願いが込められています。友利あゆはこの原曲をベースに、新曲「島風（しまかぜ）」を制作しました。彼女は、航海の安全を願う先人の想いを「母の声」や「明日も生きていかなければならない決意」といった現代的な感情に重ね合わせました。ユネスコにより「極めて深刻な危機」にある言語と指定された与那国語の精神を、島に吹き続ける風のような瑞々しい感性で現代に繋ぎ、新たな価値を創出しました。

【2-1. 制作コンテンツ】

テレビ番組

宮古語 宮古島編

#5 放送 2月2日 (月)

#6 放送 2月4日 (水)



出演

稲嶺幸乃 おじいの形見である三線を弾く唄者

歌碑

とうがにあやく 宮古島に伝わるしまのうた

稲嶺幸乃は本プロジェクトの#5と#6において、宮古島を代表するしまのうた「とうがにあやく」の再解釈に挑みました。原曲の「とうがにあやく」は、宮古の人々の世界観を壮大なスケールで表現したうたです。

「世の中を照らす太陽（まていだ）のように、島々の隅々まで照らし覆っている統治者の世は、根の生えた岩のように安泰である」と讃える内容であり、古くから祝宴の席での「座開き（幕開け）」として欠かせない、宮古島の人の魂を象徴する重要な文化財産です。

稲嶺幸乃はこの原曲をベースに、新曲「MATIDA（マティダ）」を制作しました。彼女は原曲に込められた「太陽」のモチーフを、現代を生きる私たち一人ひとりを照らす「光」や「祈り」として捉え直しました。月日が流れても変わる事のない太陽の輝きに、自身の「ウムイ（想い）」を重ね、世界中を照らし出すような壮大な希望の歌へと昇華させました。三線の音色とともに、宮古島の深い精神性を次世代や世界へと繋ぐ役割を果たしています。

【2-1. 制作コンテンツ】

テレビ番組

沖縄語 今帰仁村編

#7 放送 2月9日 (月)

#8 放送 2月11日 (水)



出演

rain 「沖縄方言で歌ってみた」などYouTubeを中心に活動

歌碑

ひやみかち節 沖縄を代表するしまのうた

rainは本プロジェクトの#7と#8において、沖縄の不屈の精神を象徴する名曲「ひやみかち節」の再解釈に挑みました。原曲の「ひやみかち節」は、第二次世界大戦後の荒廃した沖縄において、人々に希望と誇りを取り戻させるために作られた楽曲です。タイトルの「ひやみかち」とは、沖縄の言葉で「えいっ！と気合を入れる」という意味を持ち、歌詞に込められた「七転び転でひやみかち起きて（七転び八起き）」の精神は、困難を乗り越えて立ち上がる沖縄の人々の生命力を体現しています。

rainはこの原曲に、自身が書き下ろした現代のパートを融合させ、新曲「ヒヤミカチ節～祈り～」を制作しました。彼女は、戦後の復興を支えた原曲の持つ力強さを、現代社会における「今日を越えようとする祈り」として再定義しました。「この喉を通る意味知ってるから届いてねえ届けて」という歌詞には、先人の想いを背負い、音楽の力で世界を平和にしたいという彼女自身の強い意志が込められています。

【2-1. 制作コンテンツ】

八重山語 竹富島編

#9 放送 2月16日 (月)

#10 放送 2月18日 (水)



テレビ番組

出演

Serika 沖縄を拠点に活動するギターシンガーソングライター

歌碑

安里屋ユンタ 沖縄を代表するしまのうた

Serikaは本プロジェクトの締めくくりとなる#9と#10において、竹富島に伝わる有名な「安里屋ユンタ（あさどやゆんた）」の再解釈に挑みました。原曲の「安里屋ユンタ」は、かつて竹富島に実在した絶世の美女・クヤマが、王府から派遣された役人の求婚を撥ねつけたという気丈な物語を背景に持つ歌です。クヤマの姿勢は、八重山の人たちにとってあるべき精神の象徴として今日まで語り継がれています。

Serikaは、この原曲をベースに、新曲「Kuyama feat.Serika」を制作しました。彼女は、役人の誘いを断り自分自身であり続けたクヤマの「決して揺らぐことのない誓い」に焦点を当てました。夜月を浴びて光る白い肌や、瞳の中に静かに燃える情熱を、現代的なチルアレンジのR-POPへと昇華。伝統的な「ゆんた」が持つ男女の掛け合いの精神を現代のサウンドと融合させ、現代にも通じる変わらない「志の強さ」を歌い上げました。

【2-2.NFT制作と配布 連携企業 SUSHI TOP MARKETING】



◆本事業におけるSUSHI TOP MARKETING役割とNFTの設計

連携企業となるSUSHI TOP MARKETINGは、NFTの企画設計、ブロックチェーン上への発行機能、LINE連携によるアカウントレス配布基盤およびNFT販売基盤、分析基盤の提供を担いました。具体的には、番組視聴証明・言語クイズの学習証明・歌碑訪問の聖地巡礼証明・イベント参加チケット（視聴証明の抽選景品ならびに販売）という5グループのNFTを設計し、「認知→学習→訪問→参加」という段階的な関与の導線を構築しました。これらをアプリではなくNFTで実現した理由は、ブロックチェーン上のデータが持つ3つの特性にあります。特定組織に依存せず残る「永続性」、後から書き換えられない「改ざん不可能性」、単一管理者に依存しない「分散管理」。言語保全という何十年・何百年単位のテーマにおいて、サービス終了でデータごと消えるアプリや、予算打ち切りで失われる自治体DBとは異なり、NFTはこの記録を半永久的に保持する役割を担っています。

ブラウザウォレットでの配布



仮に生成されたブラウザウォレットでNFTを受け取り、受け取り後にメタマスクなどに移行もできる標準的な配布導線
(ブラウザウォレットで特許取得済み)

© SUSHI TOP MARKETING Inc. All Rights Reserved.

LINE経由での配布



自治体のお客様などに喜ばれる全世代が受け取れるNFT配布オプションです。配布することで、LINE公式の友達数増加効果もあります。






※ LINEブロックチェーンではありません



【2-2. NFT制作と配布】

NFT

◆制作したNFTの一覧表

カテゴリー	種類	デザイン・特徴	配布トリガー	サンプル
① テレビ番組	全10種	3Dメダルとプレート。表面に歌碑写真やアーティスト直筆デジタル歌碑を配置。裏面は番組ロゴ。	番組視聴中のアクション（QR読み取り）	
② 聖地巡礼	全5種	歌碑周辺の風景を切り取った3Dプレート。	沖縄各地のゆかりの地を実際に訪問	
③ コンプリート	全2種	TV配布と聖地巡礼それぞれで全てのNFTを収集した者に与えられる「マスター」の特別なアクリルスタンド風NFT。	上記NFTの収集コンプリート	
④ イベント	全2種	デジタルチケット（入場証）とデジタル参加証となる3Dプレート。	2月21日のイベント参加者限定	
⑤ 学習証明	全5種	スタイリッシュな認定証デザインをあしらった3Dプレート。5言語（沖縄・宮古・国頭・八重山・与那国）に対応。	各言語のクイズ全問正解	

【2-2. NFT制作と配布】

TV番組NFT

オモテ面



#1. ましゅんく節



#3. とぐる岳節



#5. とうがにあやく



#7. ひやみかち節



#9. 安里屋ユンタ

◆歌碑 3DメダルNFTに記載している情報は以下の通り

- ①しまくとぅばの歌詞
- ②日本語訳による歌詞
- ③各語彙の意味
- ④うたの解説



ウラ面※共通デザイン

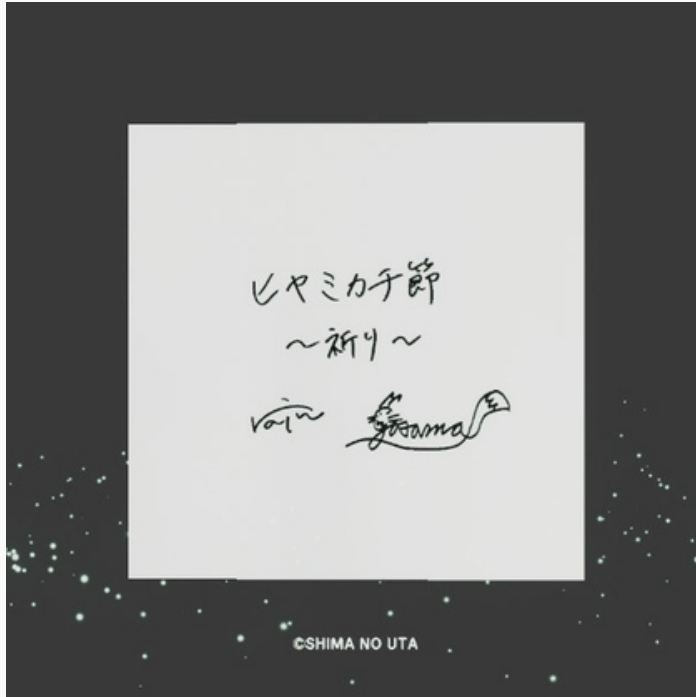
【2-2. NFT制作と配布】

TV番組NFT

デジタル歌碑

オモテ面

アーティスト制作楽曲タイトル



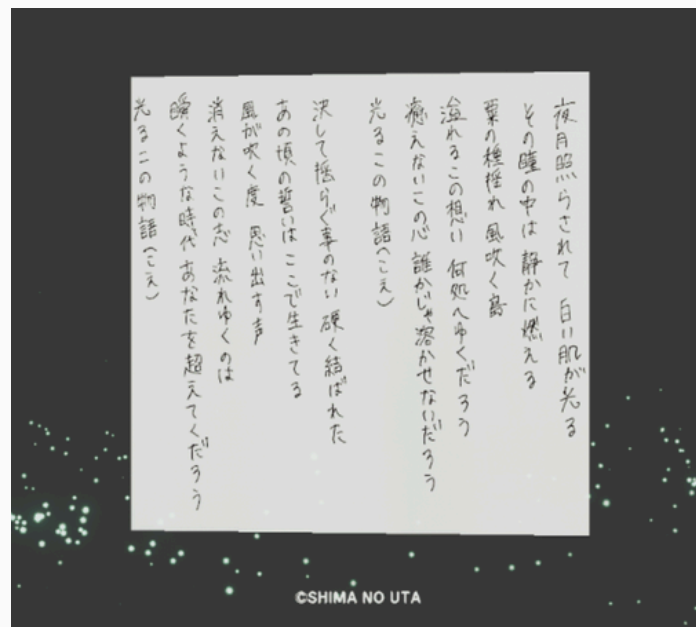
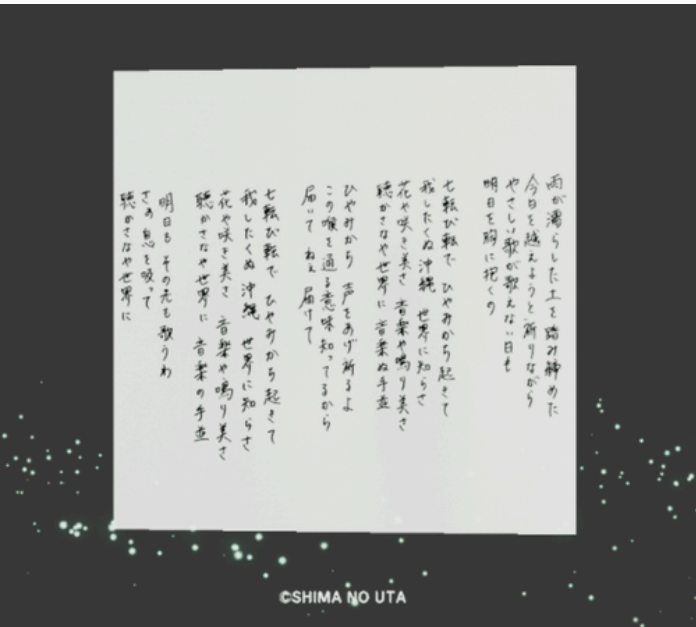
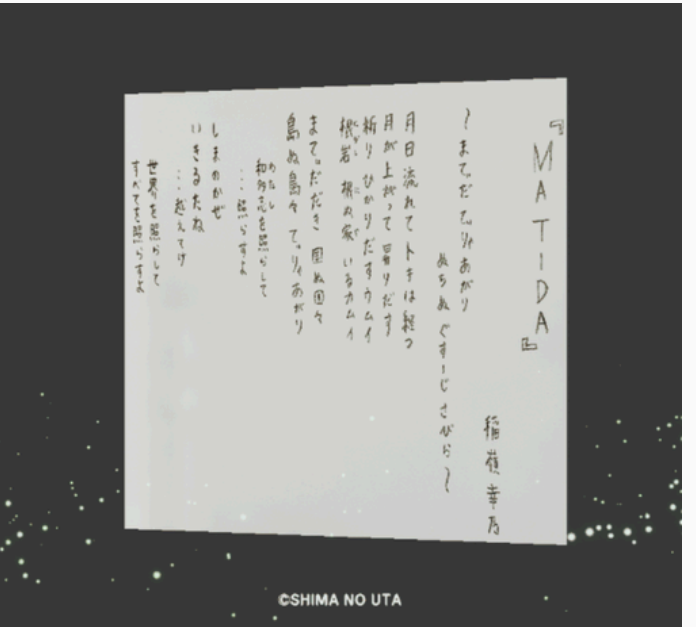
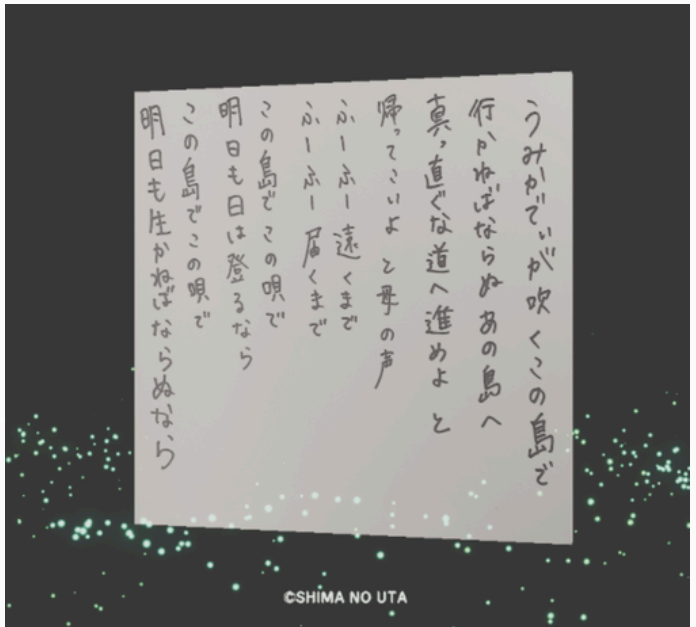
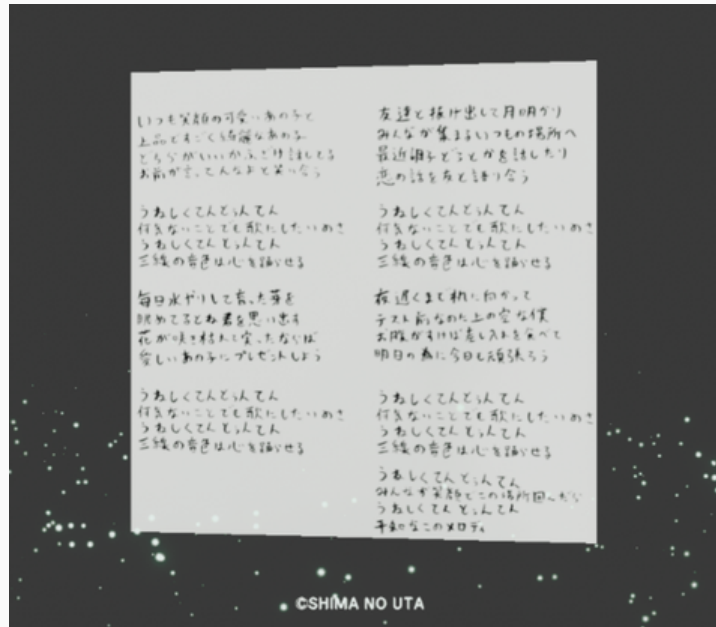
#2. てんとうんてん

#4. 島風

#6. MATIDA

#8. ヒヤミカチ節〜祈り〜

#10. Kuyama feat. Serika



ウラ面

アーティスト制作楽曲 歌詞

【2-2. NFT制作と配布】

TV番組NFT

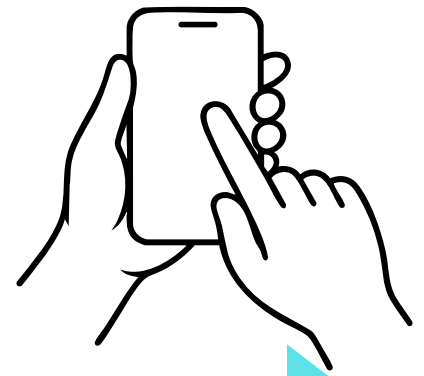
◆テレビ番組NFTの配布導線



地上波放送



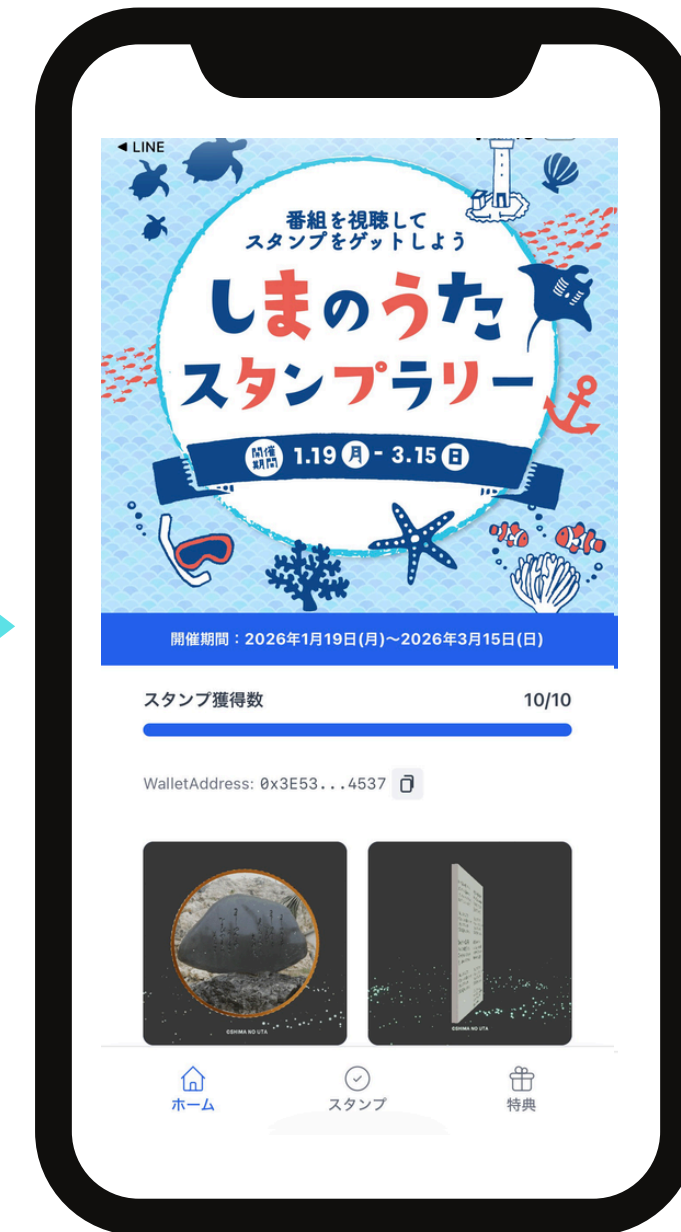
見逃し配信



画面のQRコードを
スマホで読み込む



琉球朝日放送公式LINEを通じて
NFTをダウンロード



「しまのうたスタンプラリー」
コンプリートを目指す導線設計

【2-2. NFT制作と配布】

聖地巡礼NFT

オモテ面



聖地巡礼NFT



聖地巡礼NFT



聖地巡礼NFT



聖地巡礼NFT



聖地巡礼NFT

◆聖地巡礼NFTに記載している情報は以下の通り

- ①歌碑住所
- ②歌碑にまつわる周辺情報



ウラ面※共通デザイン

【2-2. NFT制作と配布】

聖地巡礼NFT

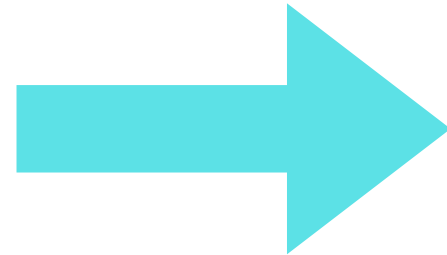
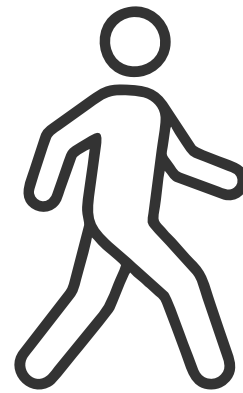
◆聖地巡礼NFTの配布導線



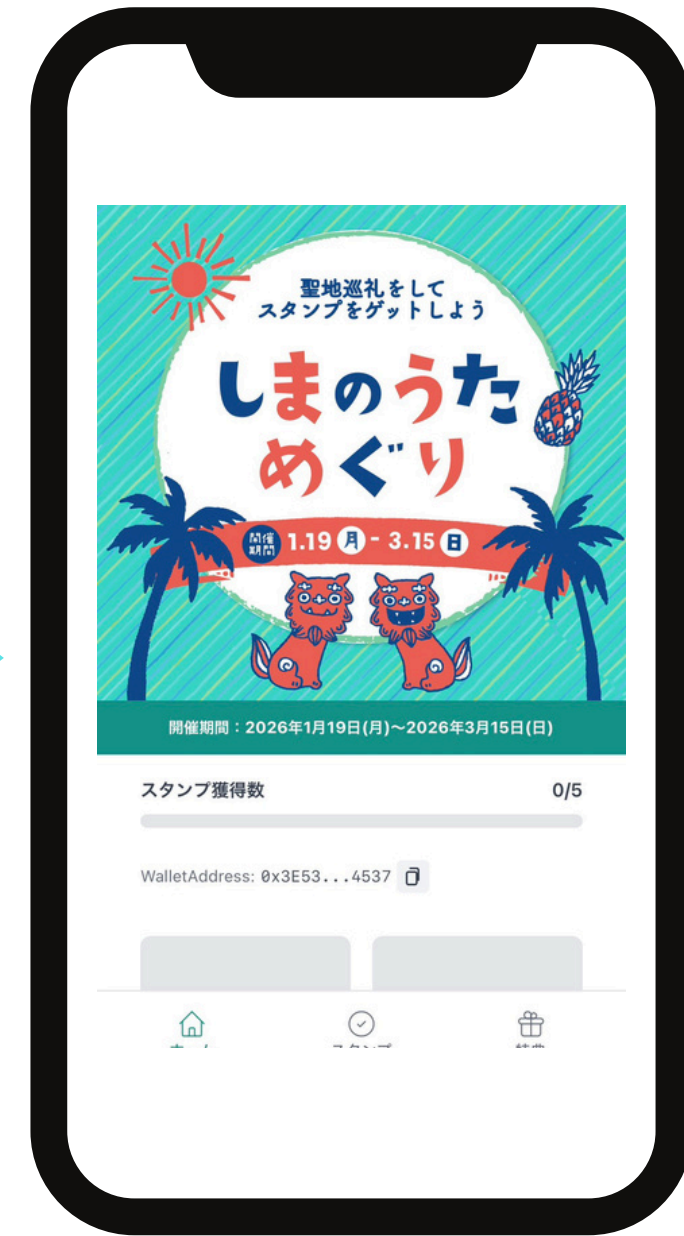
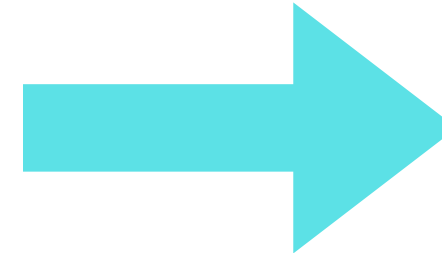
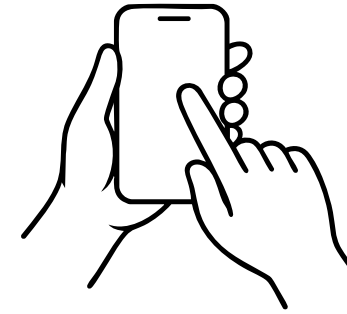
位置情報に応じて
NFTを取得できる



歌碑周辺50m以内を訪れると
NFTのDLが可能になる設定



琉球朝日放送公式LINEを通じて
NFTをダウンロード



「しまのうためぐり」
コンプリートを目指す導線設計

【2-2. NFT制作と配布】

コンプリートNFT

◆コンプリートNFTの配布導線



TV番組コンプリートNFT

「しまのうたスタンプラリー」で全10個の
NFTをDLすると取得できるコンプリートNFT



聖地巡礼コンプリートNFT

「しまのうためぐり」で全5個の
NFTをDLすると取得できるコンプリートNFT

【2-3. リアルイベント】

リアルイベント

◆イベント概要

イベント名：しまくとぅばスペシャルイベント

実施日：2026年2月21日

場所：居酒屋 島唄

出演：Teechi、友利あゆ、稲嶺幸乃、rain&530（ゴサマル）、Serika&YAPAN

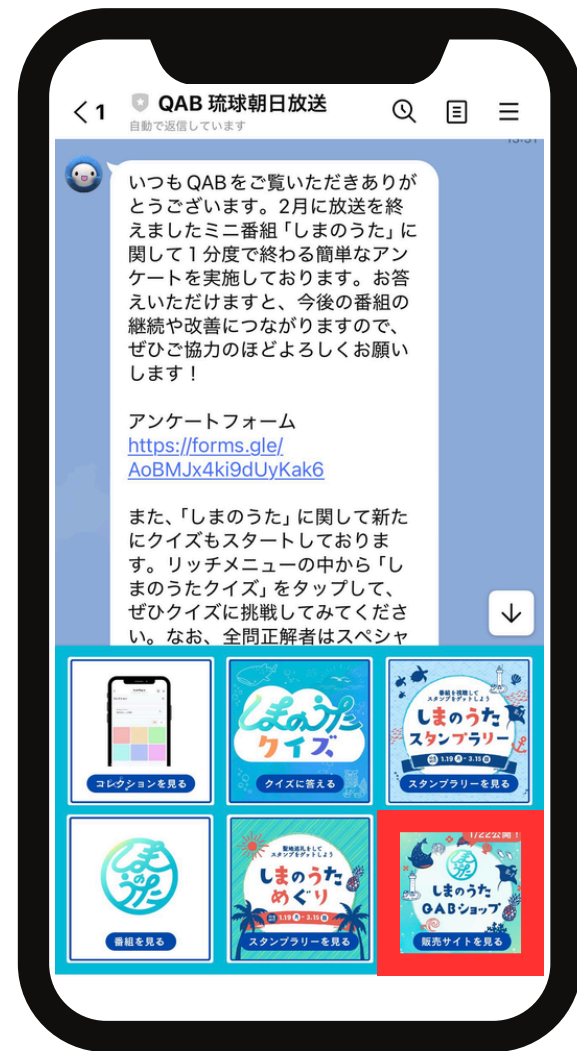
内容：番組視聴NFTを保有するユーザーを対象に、番組に出演した5組のアーティストによるライブ&トークイベントを実施。NFTが「デジタルな入場証」として機能することで、放送からリアルイベントまでのシームレスな体験設計を実現しました。



【2-3. リアルイベント】

イベントNFT

◆イベントNFTの配布導線



デジタル参加証NFT

しまのうたNFTホルダーの中から
イベント参加希望者へ限定配布NFT



デジタルチケットNFT

NFTを持っていないアーティストファン向け
有料販売チケット購入者に配布されたNFT

【2-4. しまくとぅばクイズ】

学習証明書NFT

オモテ面



国頭語NFT



与那国語NFT



宮古語NFT



沖縄語NFT



八重山語NFT

しまくとぅばクイズ 国頭語編

- Q1. 「ましゅんく」の意味は？
A: 場所の名前 B: 人の名前
- Q2. 「しゅうらーしゃ」の意味は？
A: 品があって美しい B: 美しくない
- Q3. 「なべらばな」の意味は？
A: へちまの花 B: あさがおの花
- Q4. 「地頭代殿内」の意味は？
A: 琉球国の王家 B: 村長の家
- Q5. 「てんとうんてん」の意味は？
A: 三線の音色 B: ひとが歩く様子

しまくとぅばクイズ 与那国語編

- Q1. 「かでい」の意味は？
A: 風 B: 家族
- Q2. 「だぎ」の意味は？
A: 拝所のある海 B: 拝所のある山
- Q3. 「にばり」の意味は？
A: 数字の2 B: 根
- Q4. 「うりみかてい」の意味は？
A: 季節風 B: 漁師
- Q5. 「さんぬふあ」の意味は？
A: 西南西 B: 南南西

しまくとぅばクイズ 宮古語編

- Q1. 「まていだ」の意味は？
A: 待っている B: 真太陽
- Q2. 「あやぐ」の意味は？
A: 鳴き声 B: 歌
- Q3. 「親国（うやぐに）」の意味は？
A: 沖縄本島 B: 日本
- Q4. 宮古語のことをなんと言う？
A: みやこんとうば
B: ミャークフツ
- Q5. 宮古語でありがとうの意味は？
A: たんでいがたんでい
B: とうとうがなし

しまくとぅばクイズ 沖縄語編

- Q1. 「ひや」の意味は？
A: 掛け声でよいしょ！
B: 冷たいときに出る声
- Q2. 「わした」の意味は？
A: 明日 B: わたしたち
- Q3. 「とうら」の意味は？
A: 猫 B: 虎
- Q4. 「はに」の意味は？
A: 翼 B: かに
- Q5. 「ひやみかち節」の歌詞でカタカナの言葉はどれ？
A. オーシャン B. パシフィック

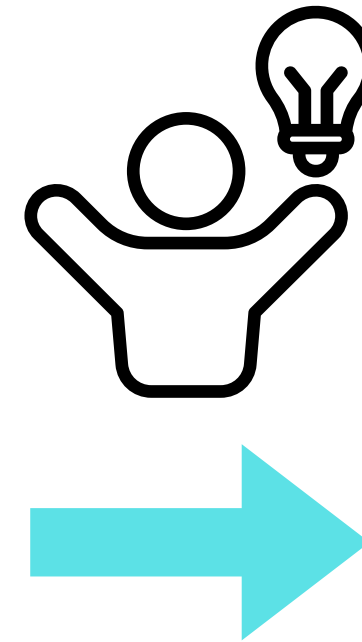
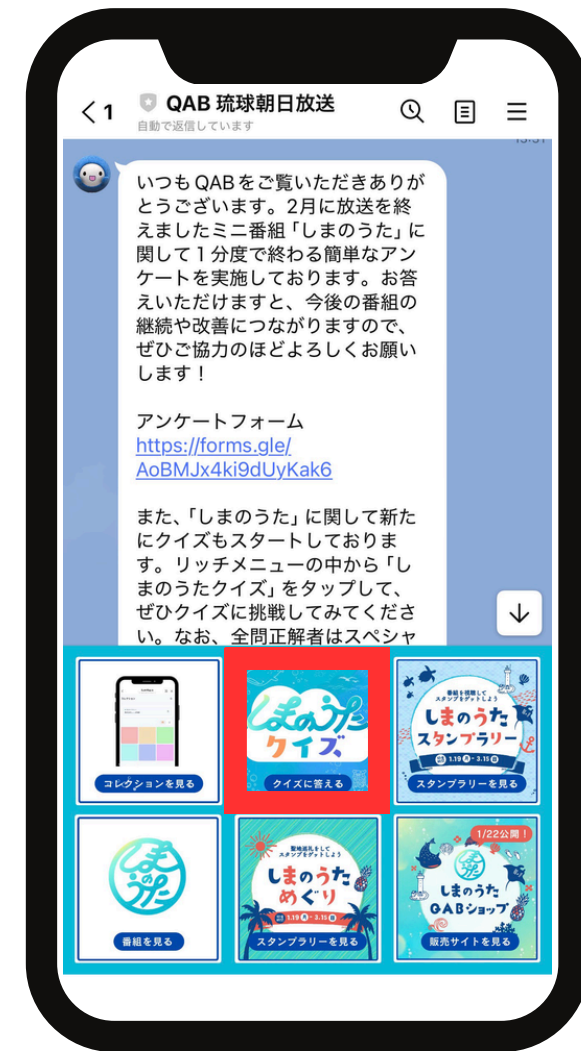
しまくとぅばクイズ 八重山語編

- Q1. 「ユンタ」とはなに？
A: 民謡のジャンル名で掛け合いが特徴
B: 八重山諸島に伝わる「物語」の意味
- Q2. 役人の求婚を断った女性の名前は？
A: 目差主 B: くやま
- Q3. 「目差」の意味は？
A: 宮古・八重山政庁の役職名
B: 目に入れても痛くない
- Q4. 「ハリヌ」の意味は？
A: 囃子 B: 針
- Q5. 「かぬしゃま」の意味は？
A: 騒がしい子 B: 可愛い子

【2-4. しまくとぅばクイズ】

学習証明書NFT

◆学習証明書NFTの配布システム



学習証明書NFT

一つの言語で全5問（5言語×5問）しまのうたクイズに答えて全問正解すると配布される学習証明NFT

しまくとぅばNFTプロジェクト

【第3章：実証結果】

【3-1.全NFT配布結果】

1. 項目別分析

① 配布チャンネル別の実績

◆TV放送・配信連動:

182個（全体の約80%）のNFTが取得されました。テレビ視聴を通じた取得が最大の流入源となりました。

◆しまくとぅばクイズ: 36個のNFTが取得されました。番組視聴から一歩進んだ「学習効果」のある能動的な参加を確認しました。

◆聖地巡礼・イベントチケット:

6個のNFTが取得されました。特にイベントに関しては、実際に対価を支払って足を運ぶという高いハードルに対し、行動変容を伴う極めて深い関与層が可視化されました。一方で、聖地巡礼に関しては、NFT取得導線の設計に改善の必要性が見られる結果となりました。4つの地域が離島であることから、現地訪問への高いインセンティブ設計などが必要だと考えられます。

総配布数数

229

総参加者数

57

NFT数

22

総配布数数

182

総参加者数

49

NFT数

11

総配布数数

0

総参加者数

0

NFT数

5

総配布数数

6

総参加者数

4

NFT数

1

【3-2.テレビ放送及び配信結果】

話数	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9	#10		
地上波放送												
視聴率	4.2	2.4	4.3	3.6	3.6	3.6	3.6	5.8	4.6	3.6	単位 (%)	
想定視聴人数	5.9	3.4	6	5	5	5	5	8.1	6.4	5	単位 (万人)	
※ 1%あたりの想定視聴者数=1.4万人 (沖縄県の人口約146万人をもとに算出)										合計	55	万人
配信												
再生回数	1007	548	829	410	622	532	633	415	277	240	単位 (回)	
										合計	5,513	回

① 地上波放送：視聴率と想定視聴人数

概況: 全10回の平均視聴率は約3.9%で推移しました。沖縄県の人口（約140万人）から算出した想定視聴人数は累計で55万人に達しています。

ピーク回: #8（アーティスト：rain／原曲：ひやみかち節）が5.8%（約8.1万人）で最高値を記録しました。

分析: マスメディアであるテレビ放送を活用したことで、消滅危機言語という専門性の高いテーマに対し、のべ55万人という圧倒的な規模で「認知の入り口」を創出することに成功しました。

② YouTube配信：再生回数

概況: 各回数百回から千回程度の再生で推移しており、合計再生数は約5,200回超となりました。

ピーク回: #1（アーティスト：Teechi／原曲：ましゅんく節）が1,007回で最も多く視聴されています。

分析: 地上波放送の想定視聴人数（各回平均約55万人）と比較すると、YouTubeへの移行率は約1%前後（#1の場合：1,007回 ÷ 5.9万人 ÷ 1.7%）に留まっています。番組放送後に「もう一度見たい」「詳細を知りたい」と考えたコアな関心層の受け皿として機能しているものの、地上波の爆発力をデジタル上での拡散・再視聴に繋げる点では改善の余地があります。

【3-2.テレビ放送及び配信結果】

2. 分析から見た効果と課題

【効果的だったこと】

1. 圧倒的な認知拡大力: 累計55万人の視聴者へアプローチできたことは、地上波放送ならではの成果です。後述するアンケートでは45.5%が「TV番組でプロジェクトを知った」と回答しており、主要な認知経路となりました。
2. 人気楽曲・アーティストによる牽引: 最高視聴率を記録した#8（ひやみかち節）や、YouTube再生数が最も多かった#1（Teechi）のように、馴染みのある楽曲や若年層に支持されるアーティストの起用が、視聴維持や事後の検索行動に直結するフックとして機能しました。
3. NFT取得への高い貢献度: NFTの取得実績229個のうち、8割以上（182個）がTV放送連動による取得であり、受動的な視聴から「スマホをかざす」という能動的なアクションへの誘導にある程度の成果が見られました。

【課題となったこと】

1. 放送から配信への転換: 地上波の視聴人数に対し、YouTube再生数が相対的に低いため、放送内での「続きはウェブで」「アーカイブはこちら」といったYouTube・特設サイトへの誘導導線をさらに強化する必要性がありました。
2. 中盤以降の維持率: 視聴率は安定していましたが、YouTube再生数は#9・#10で200回台まで落ち込んでいます。全10回を通しての「物語性」や「コンプリートしたくなる仕掛け」をより強固にし、終盤までユーザーの熱量を維持する工夫が求められる結果となりました。
3. 「視聴」から「学習・関与」への深化: 55万人にリーチしながら、まだまだNFT取得やアンケート回答に至った人数は限定的だ捉えています。関心を惹きつけた後の「深い学び」や「具体的なアクション」へと視聴者をいかにエスコートするかという課題が見えてきました。

【3-2.テレビ放送及び配信結果】

NFT別配布数一覧

対象期間中に配布が観測されたNFTのみ表示

順位	NFT名	配布数
1	「ましゅんく節」歌碑	26
2	「とぐる岳節」歌碑	25
3	「てんとうんてん」デジタル歌碑	24
4	「島風」デジタル歌碑	23
5	「ひやみかち節」歌碑	18
6	「とうがにあやぐ」歌碑	16
7	「ヒヤミカチ節 ～祈り～」デジタル歌碑	16
8	「MATIDA」デジタル歌碑	13
9	「安里屋ゆんた」歌碑	9
10	「Kuyama feat Serika」デジタル歌碑	8
11	しまのうたマスター認定証	4

② 人気NFTの傾向

取得数ランキングは上記の通りです。

結果としては、「デジタル作品」よりも、実在する「歌碑」をモチーフとしたNFTの方が取得数が多い傾向にあることがわかりました。また、話数を追うごとにDL数の減少が見られたことから、継続視聴することへのインセンティブ設計が重要だと考えられます。一方で、歌碑を象徴とするように、地域の歴史的シンボルに対する関心の高さが伺える結果となりました。

分析サマリー 統計情報

ピーク

11:00

最も取得が多い期間

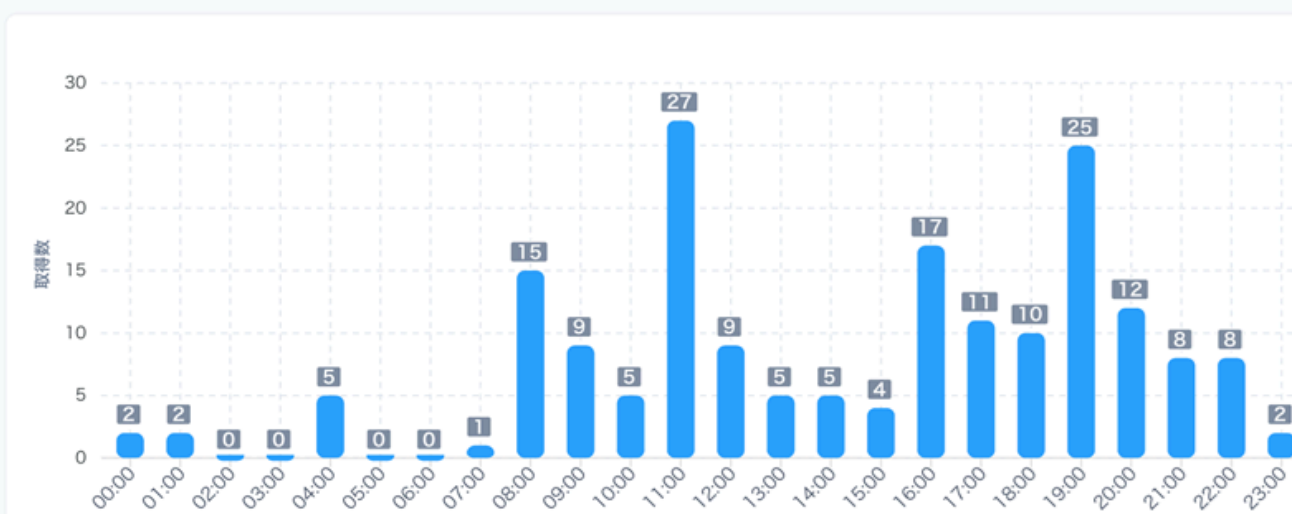
平均

5.0

平均的な取得間隔

時間帯別グラフ 取得時間帯の傾向

全体トレンド NFT別



③ 取得時間帯とユーザー行動

取得時間は午前11:00と放送時間（18:55）直後に大きな山が生まれる結果となりました。午前11時での取得については、YouTubeでの見逃し配信開始後、アーティストによるSNS経由での事後取得が寄与したと考えられます。

【3-2.テレビ放送及び配信結果】

2. 分析から見えた効果と課題

【効果的だったこと】

1. テレビの入り口としての機能: 全体の8割が放送連動での取得であり、地上波放送がNFTという新技術への心理的ハードルを下げる「最初の入り口」として強かに機能しました。
2. 物語性とコレクション性の連動: 「原曲の歌碑」と「アーティストのデジタル歌碑」をセットで取得させる設計が、ユーザーのコレクション欲求を刺激し、継続的な視聴に繋がりました。
3. イベント運用の成功: 配布数は限定的ながらリアルな場への動線を確保できたことは実証実験として大きな成果です。

【課題となったこと】

1. 聖地巡礼のハードル: 歌碑を実際に訪れる「聖地巡礼型NFT」の取得数が0個となったことは大きな課題です。番組で紹介した5つの地域のうち、4つが離島ということが主な要因だと推測されますが、聖地巡礼については、より長期的な目線で本取り組みの評価を行うことが必要だと考えられます。一方で、聖地巡礼における積極的な広報やインセンティブ設計の強化も次段階の課題の一つだと感じています。
2. より深い学びへの導線設計: 単に「取得して満足」で終わらないよう、保有しているNFTが将来的に「学習データベースへのアクセス権」や「地域限定の優待」となるような、中長期的な価値設計が求められていると感じています。

【3-3.リアルイベントによる実証成果】

◆アーティストコメント

Teechi 「オジーオーバーが話すのも半分くらいも分からなかったり、そういう世代になってしまっていて、でもこうして歌碑をまわるなかで大事にしなきゃいけない、音楽を発信する側としてより大切にしていって、音楽にも取り込んでいけたらいいなと痛感しました」

稲嶺幸乃 「思っている以上に、（しまくとうばは）もっともっと美しいんだなという深さ。
きれいな言葉を勉強して、つなげていけたらなと思いました」

530（ゴサマル） 「歌う、演じるって平和じゃないとできない。
戦争が二度とありませんようにという祈り（の歌）でもある」

◆来場者コメント

来場者① 「最高でした。一人ひとりの良さがとても伝わって興奮しました」

来場者② 「島の言葉を話さない普通の会話ですらままならない時代に、しまくとうばの大切さとか、
自分たちの生まれてきた歴史を痛感できるようなイベントでした」

来場者③ 「しまくとうばになじみが普段ないので、勉強したいなって思って、すごく来れてよかったです」

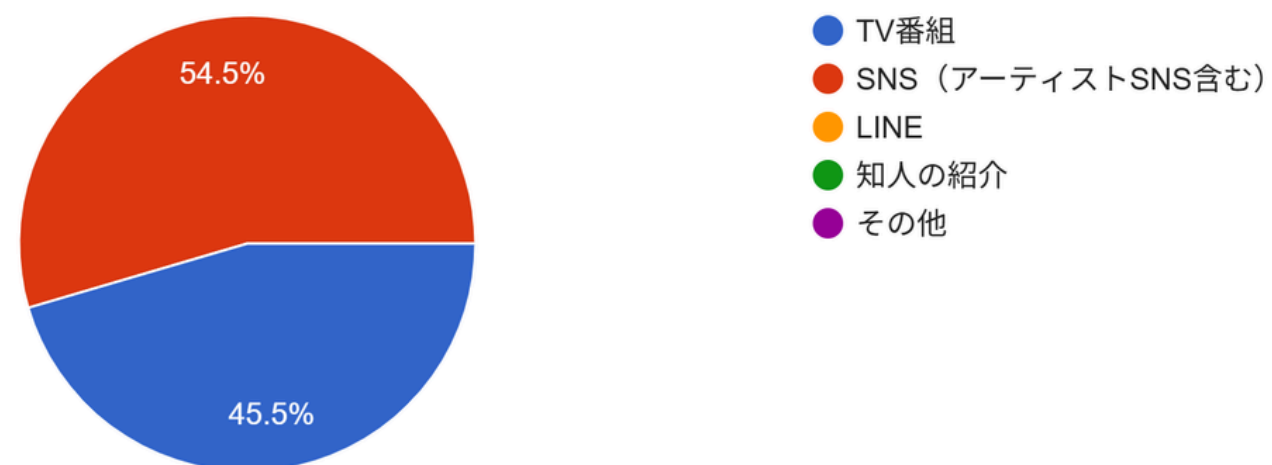


アーティストと来場者に“リアルな場でしまくとうばに触れる機会”を創出

【3-4.アンケート結果】

Q1. 「しまのうた」プロジェクトを何で知りましたか？

11件の回答



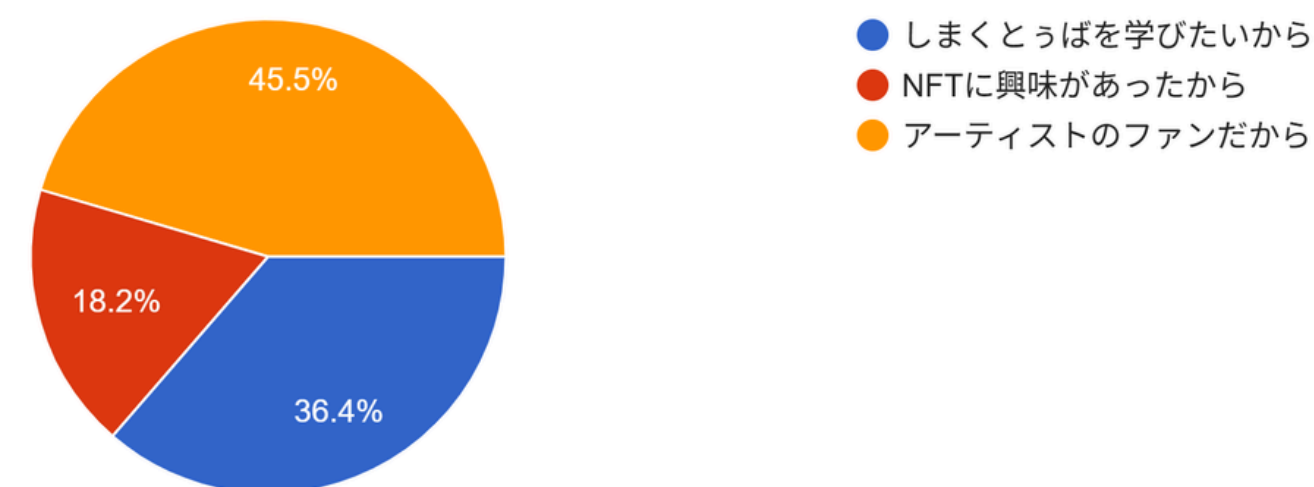
Q1. プロジェクトの認知経路

結果: SNS (アーティストSNS含む) 54.5%、
TV番組 45.5%

分析: 既存メディア (TV) とデジタル (SNS) がほぼ均衡しており、両輪での広報が機能したと言えます。特にアーティスト経由の認知が半数を超えており、出演者のファン層を言語文化へ誘引する戦略が有効であったことを示しています。

Q2. デジタルスタンプ (NFT) を取得しようと思った一番の理由は何ですか？

11件の回答



Q2. NFT (デジタルスタンプ) 取得の動機

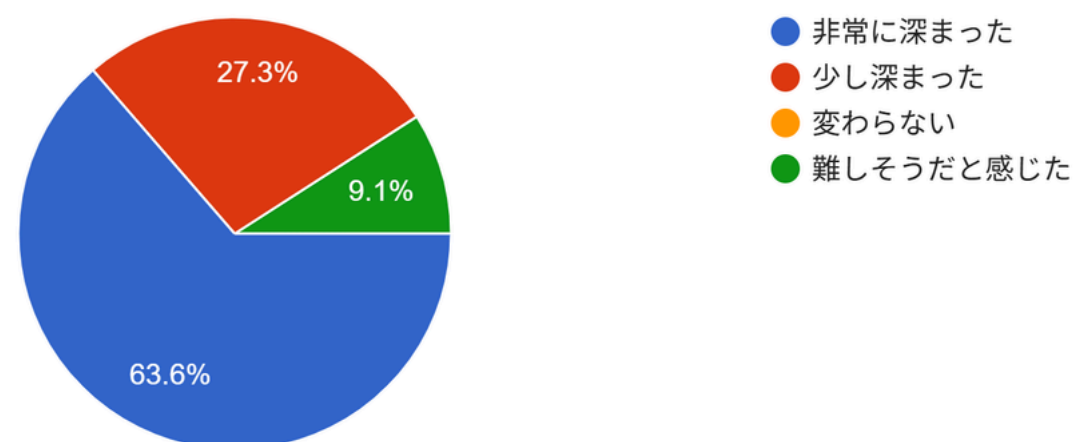
結果: アーティストのファンだから 45.5%
NFTに興味があったから 36.4%
しまくとぅばを学びたいから 18.2%

分析: 「言語学習」と比べると「アーティスト」や「先端技術への好奇心」が強いフックになったことが分かります。

【3-4.アンケート結果】

Q3.番組視聴やデジタルスタンプ（NFT）取得を通してしまくとうばに対する印象は変わりましたか？

11件の回答



Q3. しまくとうばに対する印象の変化

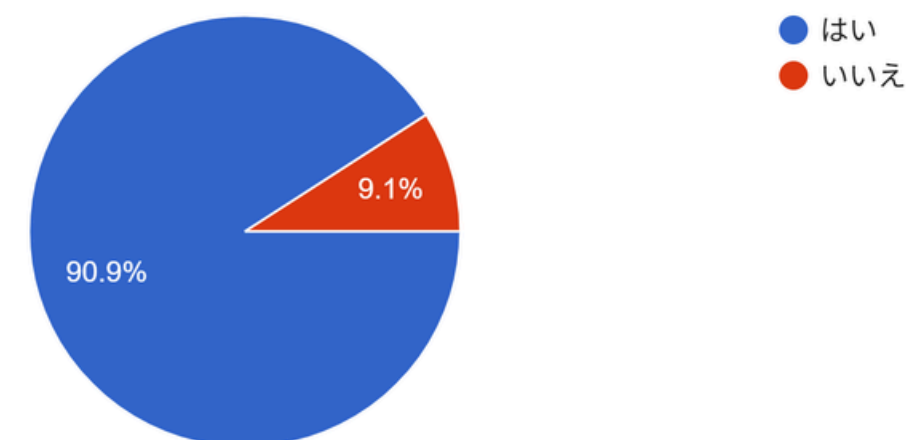
結果: 「非常に深まった」 63.6%

「少し深まった」 27.3%（合計で90%以上）

分析: プロジェクト参加者の圧倒的多数が、心理的な変化を実感しています。アーティストの真摯な取り組みを追体験することで、難解に感じられがちなしまくとうばが「自分事」として捉え直された成果と言えます。

Q4.「歌碑」を巡るストーリーやアーティストの楽...て、その地域に行ってみたいと感じましたか？

11件の回答



Q4. 地域・歌碑への訪問意欲

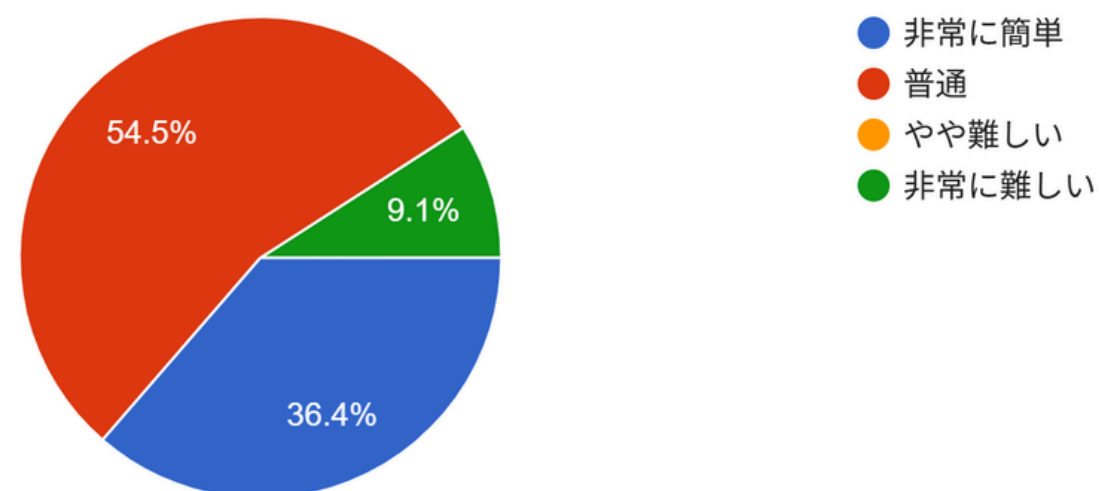
結果: 「はい」 90.9%

分析: デジタルな体験が、リアルな地域振興（聖地巡礼・観光誘致）へ繋がる強い動機付けになっていることが明確になりました。

【3-4.アンケート結果】

5. デジタルスタンプ（NFT）の取得操作は簡単でしたか？

1件の回答



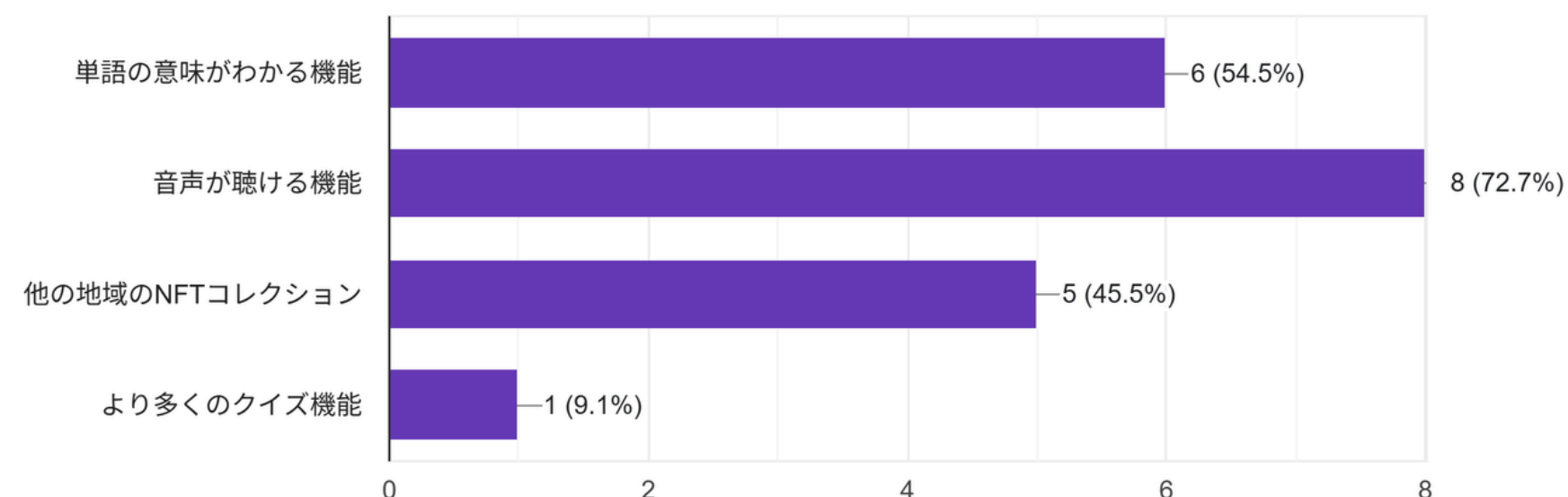
Q5. NFT取得操作の難易度

結果: 「普通」54.5%、「非常に簡単」36.4%

分析: 9割以上がスムーズに取得できており、LINE連携による「アカウントレス配布」が技術的障壁の払拭に大きく寄与したことがわかります。一方で「やや難しい」との回答も存在し、完全なユニバーサル化にはさらなる改善の余地があります。

Q6. 今後、どのような機能があれば「しまくとう...」をより深く学びたいと思いますか？（複数回答可）

11件の回答



Q6. 今後欲しい機能（複数回答）

結果: 音声 that 聴ける機能 72.7%、

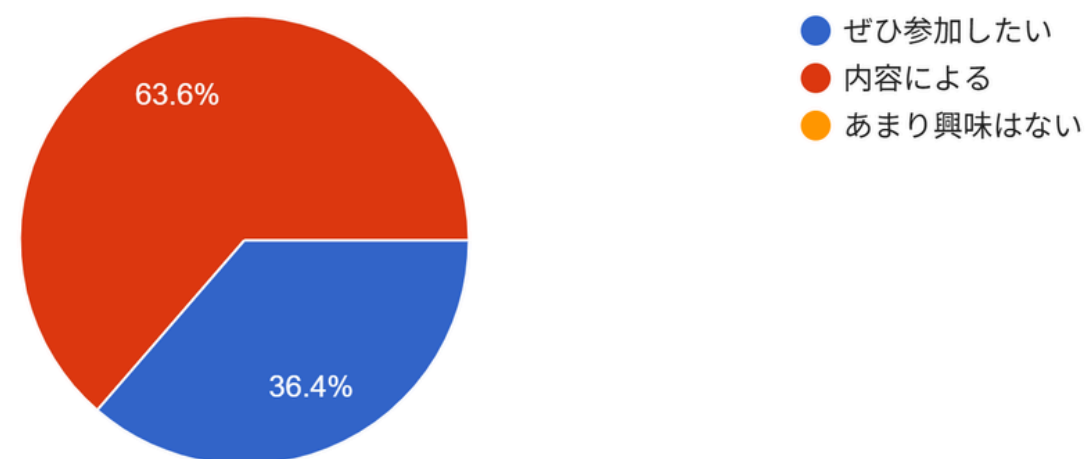
単語の意味がわかる機能 54.5%

分析: ユーザーは「より深く、正しく学びたい」という欲求を強く持っていることがわかります。また他の地域のNFTコレクションにも強い関心を示していることがわかりました。

【3-4.アンケート結果】

Q7. 沖縄以外の地域（アイヌ語や八丈語など）でも同様の取り組みがあれば参加したいと思いますか？

11件の回答



Q7. 他地域（アイヌ語・八丈語等）への参加意欲

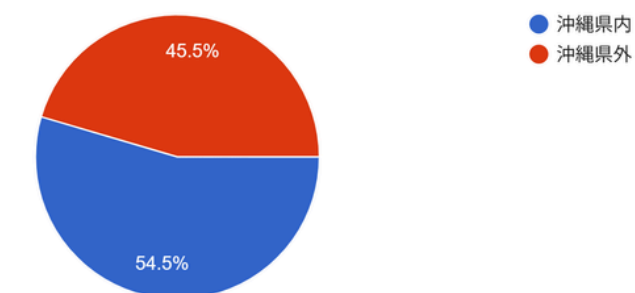
結果: 「ぜひ参加したい」 36.4%

「内容による」 63.6%

分析: 本事業のモデルが、沖縄に留まらず全国の消滅危機言語の振興モデルとして、高い汎用性と期待値を持っていることを示唆しています。

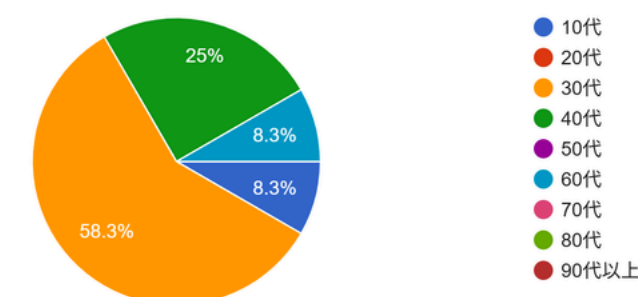
Q8. あなたの住む地域について教えてください

11件の回答



Q9. あなたの年齢についてお答えください

12件の回答



Q8.-Q9. 参加者の属性（居住地・年齢）

居住地: 沖縄県内 45.5%、沖縄県外 54.5%

年齢: 10代～40代 91.6%

分析: 最も継承が危惧される「10代～40代（合計9割）」にピンポイントで届いており、且つ「県外層が半数以上」という結果から、関係人口の創出において極めて高い効果を発揮しました。

【3-4.アンケート結果】

アンケートから見えた効果と課題

【効果的だったこと】

1. 若年層への圧倒的なリーチ: アーティストを起用したことで、従来の言語施策では届かなかった20～30代を、狙い通りプロジェクトの中心に巻き込むことができました。
2. 県外への波及効果: 県外在住者が5割を超え、しまくとぅばを媒介とした「デジタル関係人口」の可視化に成功しました。
3. リアルへの行動変容: 9割以上が「現地に行ってみたい」と回答し、NFT取得が地域活性化の強力なトリガーになることを証明しました。
4. UXの簡易性: LINEを活用したことで、Web3技術特有の「難しさ」を感じさせずに参加を促すことができました。

【課題となったこと】

1. 「興味」から「学習」への接続: 取得動機の「学習意欲（18.2%）」が相対的に低いため、関心を惹きつけた後の「深い学び」へ移行させるための設計が次なるステップとして必要となることが分かりました。
2. インフラ機能の充実: ユーザーからの「音声」や「辞書的な機能」への要望に対し、単なるデジタルスタンプに留まらない、学習データベースとしての機能を実装することがより効果的であることが分かりました。
3. 小規模回答への対応: 今回のアンケートは11件という限られたサンプル数であるため、アンケートの回答に伴うインセンティブ設計を行うなど、より広範なデータ収集を行い、実証の精度を高める必要があります。

しまくとぅばNFTプロジェクト

【第4章：成果と課題】

【4-1. 実証で得られた成果】

1. テレビというマスメディアによる圧倒的な認知拡大

全10回の地上波放送を通じて、累計で55万人（沖縄県人口約140万人に基づく推計値）の視聴者にリーチすることに成功した。特に第8回（ひやみかち節）では、最高視聴率5.8%（約8.1万人）を記録し、消滅危機言語という専門性の高いテーマが広範な社会的関心を集める「入り口」となり得ることを証明しました。YouTube配信においても累計5,200回超の再生を記録し、デジタル上でのアーカイブ価値も確認されています。

2. NFTを活用した能動的関与の可視化

実証期間中、計229個のNFT（デジタルスタンプ）が配布されました。

配布内訳: TV放送・配信連動型が182個（全体の約80%）と最大であり、次いでクイズ連動型（36個）、聖地巡礼・イベント連動型（6個）と続きます。

参加者層: ユニークユーザー数は推計約60名に上り、アンケート回答者の9割以上が10～40代であったことから、最も継承が危惧される若年層をターゲットにした戦略が功を奏しました。

3. ユーザーの心理変容と地域振興への寄与

事後アンケートの結果、プロジェクトが参加者の意識と行動にポジティブな影響を与えたことが明らかになりました。

関心の向上: 82%のユーザーが、NFT取得をきっかけに「しまくとうばへの関心が高まった」と回答。

行動変容: 90.9%が「ストーリーや楽曲を通じて、その地域（歌碑）に行ってみたいと感じた」と回答し、デジタル体験がリアルな地域振興や関係人口創出に直結する可能性を示しています。

【4-2. 実証で得られたNFTの手ごたえと課題】

◆SUSHI TOP MARKETING 徳永大輔CEO

成功した点は、LINEログインだけでNFTを取得できるアカウントレス配布の仕組みが、NFTに馴染みのない一般層に対しても問題なく機能したことです。利用者は番組中のQRコードを読み取り、数タップで取得を完了しており、ブロックチェーンの存在を意識する必要はありませんでした。「見えない」が裏側では永続性・改ざん不可能性・分散管理がすべて機能しているこの設計は、今後のNFT社会実装における標準的なアプローチとなり得ます。一方でNFTの受け入れ数はまだ途上であり、「しまくとぅば」や消滅危機言語というテーマへの関心層をいかに広げることが次の課題です。NFTという技術基盤が整ったからこそ、今後はコンテンツの訴求力や認知拡大の施策と組み合わせ、より多くの人々をこの仕組みに迎え入れる段階に進みます。

本事業において、NFTでなければ実現できなかった点は3つあります。第一に、番組視聴NFTの所有者に対し、保有確認だけでイベントへの参加案内を届けられたことです。アプリの場合は、運営側が都度会員データベースを照合しますが、NFTでは不要となります。さらに発行済みのNFTに対して、第三者が後からインセンティブを設計・追加できる柔軟性もアプリにはない特性です。第二に、各グループのNFTの保有状況から所有者がどの地域の文化にどの深さで関与したかが可視化され、関心領域に合った次の事業案内を届けるマーケティング基盤となったことです。第三に、NFTの相互運用性により、本事業によるNFTホルダーに対して、他県の放送局が言語保全番組の先行案内を届けたり、観光事業者が歌碑巡りツアーの優待を提供するといった、事業者や地域を超えた連携の先行基盤が整ったことにあります。これらはいずれも、データが事業ごとに分断されるアプリの会員データベースでは構造的に実現が難しいものになります。

【4-3. 有識者からの事業評価】

【名桜大学 波照間永吉特任教授】

◆歴史・文化と一体となった学びの重要性

言葉だけを独立させて学ぶのではなく、地域の歴史や背景と結びつけて理解することが不可欠です。そうした意味で「歌碑巡り」は歌の歌詞が生まれた現場に足を運び、その土地の風景や歴史的背景を肌で感じることで、言葉にリアリティ（臨場感）が生まれるとともに、アーティストとの協働により、若い世代が歌を入りにしまくとうばに興味を持つことは良い一歩と言えますが、単なる自己解釈に留めず、元の歌詞の意味やしまくとうばによる象徴的なフレーズを大切に扱うなど、深い理解へ繋げる工夫が求められます。

【4-3. 有識者からの事業評価】

【神戸大学 石川慎一郎教授】

◆しまくとぅばへの「関心の入り口」としての有効性

本事業の最大の成果は、消滅の危機にある「しまくとぅば」に対し、一般の人々の関心を惹きつける有効な「入り口」を作れたという点にあります。言語の保存や振興には多くの人々が「触れる・知る」という初期段階が不可欠です。今回の番組では様々なアーティストが視聴者の代表として沖縄の歌碑を訪れ、危機言語に触れるという構成をとりました。歌碑を前にして当初は当惑していた若いアーティストたちが、地元住民との対話を通じてそれぞれの言語文化の背景を深く理解し、自らのルーツやアーティストとしての在り方とも重ね合わせながら、内省的な思索や葛藤を曲作りに反映させていくプロセスを見ることで、視聴者もまた「しまくとぅば」との触れ合いを体験し、危機言語の問題を自分事として考える貴重な機会を持つことができました。

◆NFT技術の評価と課題

NFT（非代替性トークン）という先端技術を導入した点も高く評価できます。NFTの真の価値は、分散型システムによって情報を「半永久的に保存」できる点にあります。紛失・散逸しやすい方言の資料や音声をブロックチェーンに載せて保存していくという方向性は非常に有望です。一方で、実証実験を通じて、一般利用者からみた場合のシステムの使いにくさなど、ユーザーエクスペリエンス（UX）上の課題も浮き彫りになりました。今後は「この技術を使わなければならないこと」をより明確にしつつ、NFTを言語の保存や振興とどう結びつけていくべきかさらに実証研究を深めていくことが重要になるでしょう。

しまくとぅばNFTプロジェクト

【第5章：今後の展望】

【5-1. 今後の取り組み】

◆特別番組の制作と再発信

2/21の交流イベントの様や、未公開の制作舞台裏を盛り込んだ「総集編ドキュメンタリー」を制作する予定です。この特別番組を地上波放送および配信することで、NFT保有者への追加価値提供と、新規関心層の開拓を同時に行います。

◆しまのうた Season 2の企画立案

沖縄県内には100個以上の歌碑が点在しており、対象地域を拡大した「Season 2」の制作を検討します。これにより県内全域の歌碑を網羅したNFT技術を基盤とする「デジタルしまのうた歌碑マップ」の構築を目指します。

◆消滅危機言語「アイヌ語・八丈語」を含む地方の言葉を保存・普及のモデルへ

本事業で構築した「メディア×地域の歌×NFTによる可視化」というスキームは、沖縄の「しまくとうば」に限定されるものではありません。

- ・他地域への横展開として、北海道を中心とした「アイヌ語」や東京都伊豆諸島の「八丈語」など、日本国内に点在する消滅危機言語を有する地域への応用が可能。
- ・日本全体の文化基盤強化として、各地の放送局が「地域文化の旗振り役」となり、本モデルを活用することで、日本全体の多様な言語・文化がデジタル上で繋がり、次世代へ継承される「デジタル文化基盤」の形成に寄与すると考えます。

【5-2.有識者からの提言】

【名桜大学 波照間永吉特任教授】 “100年後にもしまくとうばが話されているために”

◆教育における「イマージョン教育」の導入

ハワイでのハワイ語復興（50名から2000名へ増加）をモデルとし、保育園段階からの「言葉のシャワー」を浴びる教育が必要です。沖縄県が主導し、しまくとうばを公用語として使用する保育園を拠点的に設置し、補助金を出すなどの行政支援が不可欠です。「勉強が遅れる」という親の不安を払拭し、しまくとうばで学位論文が書けるほど（ハワイ語ではそれが実現しています）しまくとうばの教育体系を目指すべきです。

◆言語を実践する「場（スポット）」の創出

学んだ言葉を実際に使う機会が不足しています。街中に、お茶を飲みながらその地域の言葉だけで会話を楽しめる拠点「ゆんたく（おしゃべり）スペース」の設置をするべきです。また、しまくとうばの案内人として、地域で親しまれている著名なアーティストや話し手を「案内人」として立て、多世代が楽しく言葉に触れる仕組み作りも必要です。

【5-2.有識者からの提言】

【神戸大学 石川慎一郎教授】 “双方向データベースの構築を”

◆次なるステージへ

本事業で得られた成果は、一般の人々が「しまくとうば」に興味を持つ「入り口」を作れたことですが、これをさらに「深い学び」へと繋げるためには「第2ステージ」が必要です。今回のプロジェクトでは「しまくとうば」の歌詞に対して現代語訳のデータが用意されました。今後は、これらを単語単位で連携させ、方言からも現代語訳からも簡単に検索ができ、かつ、検索された箇所をクリックすると当該箇所の生の音声再現されるといった「マルチメディア・データベース」の構築を図ることも一つのアイデアです。

消滅危機言語を「高いところ」に飾っておくのではなく、現代語や現代の暮らしと結びつけて、双方を「自由に行ったり来たりできる」ようにすることが重要です。NFT技術をうまく組み合わせることで、「しまくとうば」の保存・振興を促進するより効果的なシステム開発につなげられる可能性があると考えます。

【5-3.連携事業からの提言】

【SUSHI TOP MARKETING 徳永大輔CEO】 “NFTを文化のアクセスキーに”

◆本事業の将来性と展開可能性

NFTの次なる役割は、「記念品」から「文化データベースへのアクセスキー」への進化です。消滅危機言語の歌詞・朗読音声・現代語訳を紐付けたデジタルアーカイブを構築し、NFT保有者だけがアクセスできる「トークンゲーティング」が実現すれば、NFTは言語継承の「学習証明」となります。アプリにおいても会員限定コンテンツは実現可能ですが、そのアクセス権は運営側が管理しており、サービス終了でコンテンツごと失われ、運営判断で剥奪される可能性もあります。

NFTによるアクセス権には、ここまで述べてきた永続性・改ざん不可能性・分散管理がそのまま適用されます。文化を学ぶ権利そのものが、特定の管理者に依存せず保有者の手元に残り続けるのです。テレビ放送の「広く届ける力」とNFTの「深く結びつける力」を融合させた文化継承モデルは、沖縄のしまくとぅばに限らず、日本各地の消滅危機言語、さらには伝統芸能や祭事の記録保全にも応用可能な枠組みです。本事業はその実証の第一歩です。

【5-4. おわりに 琉球朝日放送 金城美優アナウンサー】 琉球朝日放送

私は島々で大切に受け継がれてきた言葉をつないでいくために、これまでニュースの中でのクイズコーナーや特集、ドキュメンタリーの制作に取り組んできました。今、日常から遠ざかりつつある言葉だからこそ、しまくとうばを「古いもの」「難しいもの」としてではなく「おもしろい・かわいい・かっこいいもの」として届け、視聴者が「自分も理解し、話してみたい」と思えるような放送を目指しています。

その中で今回制作したミニ番組「しまのうた」は、音楽という誰にとっても身近な表現を通して、人々がしまくとうばに触れる新しい入口となりました。アーティストたちが地元の人たちの思いに丁寧に向き合い、自分の言葉を紡ぎ、新しい音楽として発信することで、これまで関心の薄かった人たちの心にも届いたと感じています。

テレビを「入り口」としながら、NFT技術が言葉を届ける「基盤」として機能し、そして地域での教育が「文化」をつないでいくように、この三位一体の取り組みを通じて、100年後もしまくとうばが響き続ける沖縄を形作る一歩となれば幸いです。

「言葉は守るだけでは残らない。楽しみながら使われ、心に根付き、広がってこそ未来につながる」
その手応えを今回の事業を通じて、強く実感した取り組みとなりました。今後はこの経験を糧に、より多くの人に届く形で発信を続け、しまくとうばがもう一度、暮らしの中で自然に息づく存在になるよう挑戦し続けていきたいと考えています。

なーふいん しまぬうたうたてい、くとうばん ちむぐるん ちなてい いちゃびらやーたい♪

さーゆいゆい♪ (もっとしまのうたを歌って 言葉も心もつないでいきましょう♪)

ましゅんく節

- 一 ヨーテー ましゅんくとなびとヨーテー
 ましゅんくとなびと 見くなべて見ればヨ
 ウネスイクテントウンテン
 ヨーテー* ましゅんくやうすいさヨーテー
 ましゅんくやうすいさ なびやしゅらじゅらさヨ
 ウネスイクテントウンテン
- 二 ヨーテー さし垣の上ないヨーテー
 さし垣の上ない なべら花咲かちヨ
 (以下 囃子は一番と同じ)
 ヨーテー* うりが実ならばヨーテー
 うりが実ならば 里にむてうえすいらな
- 三 ヨーテー 下庫裡殿内の屋のくわにヨーテー
 下庫裡殿内の屋のくわに 美童若者はい揃て
 ヨーテー* な懇々々抱ちゆてヨーテー
 な懇々々抱ちゆて 美童話のうむツアヨ
- 四 ヨーテー 門から饅頭餅持ちちゆすいやヨーテー
 門から饅頭餅持ちちゆすいや 地頭代殿内ぬまなんだる
 ヨーテー* あたいていちなますいぬ一鉢ちゆぱちヨーテー
 あたいていちなますいぬ一鉢ひらんめぬ一籠ヨ¥

アーティスト名：Teechi 曲名：てんとうんてん

いつも笑顔の可愛いあの子と
 上品ですごく綺麗なあの子。
 どちらがいいかふざけ話してる。
 お前が言ってんなよと笑い合う。

*うねすいくてんとうんてん
 何気ないことでも歌にしたいのさ
 うねすいくてんとうんてん
 三線の音色が心躍らせる

毎日水やりして育った芽を
 眺めているとね君を思い出す。
 花が咲き枯れて実ったならば
 愛しいあの子にプレゼントしよう。

ともだちと抜け出して月明かり
 みんなが集まるいつもの場所へ
 最近調子どうかを話したり。
 恋の話を 友と語り合う

夜遅くまで机にむかって
 テスト前なのに、上の空な僕。
 お腹がすけば差し入れを食べて、
 明日の為に 少し頑張ろう。

うねすいくてんとうんてん
 皆が笑顔でこの場所囲んだら
 うねすいくてんとうんてん
 平和なこのメロディ

とぐる岳節

- 一、とうぐるだぎエラいしゃらやまホーまういがらエラ
- 二、さんぬふあぬ ひちぬふあぬ うりみかてい
- 三、にだいすな むとうだいすな やるかてい
- 四、はたぎやぬ しくりやぬ あぶぬよ
- 五、うびていある さしていある びらだぎ
- 六、かていがにや ういがにや ぬりぐむどうむとう
- 七、くぬかていに くぬふにゆ いたさば
- 八、にだいすな むとうだいすな やるかてい
- 九、くぬかていに いたさば とうぬういにむたさば
- 十、にがいやひり ていていりやひり ぶばまきやん
- 十一、うぶんとうや さばんみでいんきやしてい
- 十二、あんぬとうや たまぬなりんきやしてい
- 十三、まいみらるしまや なゆしま ありわら
- 十四、うりどううり うふいりむてい すないだぎ
- 十五、どうとうんくみ ひながんくみ はらさば
- 十六、なまみらるるちまでいま ていまありわら
- 十七、ありどうあり うふいちなぎ うやじま

アーティスト名：友利あゆ 曲名：島風

うみかていが吹く この島で
 行かねばならぬ あの島へ
 真っ直ぐな道へ進めよと
 帰ってこいよと 母の声

ふー ふー 遠くまで
 ふー ふー 届くまで

この島で この唄で
 明日も日は登るなら
 この島で この歌で
 明日も生かねばならぬなら

とうがにあやぐ

一

大世照らし居す までいただき
国ぬ国々 島ぬ島々
照り上がり覆いよ
我がやぐみ御主が世や
根岩どうだらよ

二

春ぬ梯梧ぬ花ぬ如ん 宮古ぬあやぐや
すうに島 糸音ぬあてい
かぎかりやよ 親国がみまい 下島がみまい
とうゆましみゆうていよ

三

十四日ぬ お月だき
十五日ぬゆ お月ぬ如んよ
上がすかぎ ぬ〇ゆすかぎ
此ぬ根ぬ家んなよ

アーティスト名：稲嶺幸乃 曲名：MATIDA

月日流れて トキは経つ
月が上がって 昇りだす
祈り ひかりだすウムイ
根岩 根ぬ家 いるカムイ

までいただき 国ぬ国々
島ぬ島々 ていりゃあがり

和多志を照らして
・・・照らすよ

しまのかぜ
いきるたね
・・・超えてけ

世界を照らして
すべてを照らすよ

安里屋ゆんた

1番

ヒヤ 安里屋ぬ くやま姉 ヨー サーユイユイ 目
差主ぬ 請ゆたら
ヨー ハリヌ チンダラ カヌシャマ ヨー

2番

ヒヤ 目差主や 我なんぱ ヨー サーユイユイ あ
たる一主や くりやおいす ヨー ハリヌ チンダラ
カヌシャマ ヨー

3番

ヒヤ んぱていから みささみ ヨー サーユイユイ
ベーるていから ゆくさみ ヨー ハリヌ チンダラ
カヌシャマ ヨー

アーティスト名：Serika,YAPAN

曲名：Kuyama feat.Serika

夜月照らされて 白い肌が光る
その瞳の中は 静かに燃える

粟の種揺れ 風吹く島

溢れるこの思い 何処へゆくだろう
癒えないこの心 誰かじゃ溶かせないだろう
光るこの物語（こえ）

決して揺らぐ事のない 硬く結ばれた
あの頃の誓いは ここで生きてる

風が吹く度 思い出す声

消えないこの志 流れゆくのは
瞬くような時代 あなたを超えてくだろう
光るこの物語（こえ）

ひやみかち節

1番

七転び転るで ひやみかち起きて わしたこの沖縄

世界に知らさ

ヒヤヒヤ ヒヤヒヤヒヤ ヒヤミカチウキリ ヒヤミ

カチウキリ

2

花や咲き美さ 音楽や鳴り美さ 聴かさなや世界に

音楽の手並

ヒヤヒヤ ヒヤヒヤヒヤ ヒヤミカチウキリ ヒヤミ

カチウキリ

3

我身や虎だいのもの 羽つけて給ふれ 波路パシフィッ

ク 渡て見やべら

ヒヤヒヤ ヒヤヒヤヒヤ ヒヤミカチウキリ ヒヤミ

カチウキリ

アーティスト名：rain

曲名：ヒヤミカチ節 ～祈り～

雨が濡らした土を踏み締めた

今日を越えようと祈りながら

やさしい歌が歌えない日も

明日を胸に抱くの

七転び転で ひやから起きて

我したくぬ沖縄 世界に知らさ

花や咲き美さ 音楽や鳴り美さ

聴かさなや世界に 音楽ぬ手並

ひやみから 声をあげ祈るよ

この喉を通る意味知ってるから

届いてねえ 届けて

七転び転で ひやみかち起きて

我したくぬ沖縄 世界に知らさ

花や咲き美さ 音楽や鳴り美さ

聴かさなや世界に 音楽の手並

明日も その先も 歌うわ

さあ息を吸って

聴かさなや世界に